

## 第 58 回 継承（新春学長メール Vol.4）

おはようございます。  
長崎大学人 河野茂です。

長崎県でも、オミクロン株による新型コロナ感染者数が増えてきたので、昨年 10 月まで送っていた「新型コロナウイルス感染症に関する最新情報」を、再開することにしました。

さて、今日の学長メールです。

このように、今年も新型コロナウイルスに関する話題は避けて通れないと思います。この 2 年間、第 1 波から第 5 波がありました。

私が最も強烈な印象を受けたのは、2020 年 4 月のコスタ・アトランチカ号の集団感染でした。

約 1 年半が経った、昨年の 11 月に、苦勞された先生や看護師さんや事務の方と小さな懇談会を行いました。

当時の激務の話をしてくれました。＜大変だった。そういえばこんなこともあったなあ～＞と、皆で再確認しました。

まだ約 1 年半前のことですが忘れてしまったことも多く、また知らなかったことも沢山ありました。

あの災害は、本にして記録に残しているから後の長崎大学人へ引き継ぐことができますが、あの本がなければ時と共に忘れ去られるかもしれないと強く私は思いました。

実は、書道の世界でも同じようなことがあります。

日本書道史に名高い三筆は、空海、嵯峨天皇、橘逸勢（はやなり）であります。

杉浦妙子先生の『入門 日本書道史』によると、空海の書は比較的残っているのですが、嵯峨天皇の書はひとつだけ、橘逸勢と断定できる書は残っていません。

書が残っていないのに三筆とは、おかしいじゃないかと思うのですが、歴史上そうなりません。

また、戦国時代の桃山文化では、古人の筆蹟を集めるブームが起きたそうです。

古人が書いた巻物などをバラバラにして切り取って飾ったり、真似たりしたそうです。

ですから、誰の何の書だったか分からないことも多々あります。

このように、記録を丁寧に保管し、後世へ継承することは非常に難しいことだと思います。

デジタルにすれば容易に可能かとも思いますが、専門家によるとデジタルによる保存と継承も同じように難しいようです。

さて、我々の足元を振り返ると、長崎大学の創基者のポンペが残したものは、どれくらい引き継がれているのでしょうか？

戦後 75 年が過ぎ、被爆者の方々が少なくなり、これから我々はどれくらいの実を継承できるのでしょうか？

新型コロナウイルスのパンデミックで、苦闘した我々の記憶はどれくらい 100 年後の長崎大学人へ引き継がれるのでしょうか？

あなたが、今一生懸命取り組んでいる仕事は、どうやって、どういう形で後輩に残せるのでしょうか？

我々の今は、多くの先輩方が残してくれた仕事や研究や教育の基盤の上にあります。

感謝しなければならぬと思います。

あなたの、私の、長崎大学の今は、先人の努力の積み上げの上にあります。有難いことです。

私の積み上げも、残り 1 年と 9 カ月。

しっかりと引き継ぐべきことを引き継いで頂き、記録に残すべきことを残すことにより、未来の長崎大学人にバトンを渡したいと思います。

もちろん、毎日前に向かって進みます。進みつつも、まとめてゆく作業もしようと思います。

さて、来週は現時点の新型コロナウイルスの現状について専門家の先生にメッセージを送ってもらおうと思っています。

このメッセージも記録保存という側面もあります。

1 月 11 日火曜 新型コロナウイルス（特に、オミクロン株）の現状/森田公一教授

1 月 12 日水曜 現時点の感染状況及び見通しについて/有吉 紅也教授

1 月 13 日木曜 ワクチンの最新情報/森内浩幸教授

1 月 14 日金曜 新型コロナウイルスの治療の最前線/泉川公一教授

1 月 17 日月曜から数回にわたり、皆さんのメッセージのまとめ。

今回、『平常心』『道』『基本』『継承』と、新年のメッセージを送りました。

皆さんの趣味や皆さんの人生観や仕事観等の、前向きなメールを沢山いただいております。

とても元気が出ます。ありがとう。

まだまだ、メールを待っています。

お互いに、今年もがんばりましょう。